



スキーキャンプ (九重森林公園スキー場)

C O N T E N T S

- ①・② YMCAのメンター制度
- ② 留学生お正月文化体験/PHD協会交流会
- ③ YMCA学院海外研修
イングリッシュ・コミュニケーション・プロジェクト
アガベNo.71「たましいは生きる」
event report
阿蘇カウントダウンキャンプ/児童福祉教育科卒業発表会
- ④ Life 第43回 テーマ「ひきこもり」
熊本市障がい保健福祉課②
People (地域YMCA情報)
YMCA学院生涯スポーツ科・建築科/阿蘇YMCA

人間関係のセーフティネットを築く YMCAのメンター制度



左から米村謙一さん、吉本貞一郎さん、菅正康さん、上村眞智子さん(以上常議員)、神保勝己さん(熊本YMCA学院事務局長)

2011年、より多くの人たちにもっとYMCAを知ってもらい、活動に参加してもらおうと誕生した「赤いりんごの会」。3つの目標と7つのテーマに基づき、常議員、運営委員、職員との協働による取り組みがスタートしています。今回は、目標の一つである「YMCA担い手会員の育成」で大きな役割を担う「メンター制度」について、活動に携わる常議員、職員の方々に、取り組みの経緯や今後の活動のあり方についてお話をいただきました。

誰もがメンターで、メンティー

神保 「メンター制度」とは、職務上の上司・部下の関係とは別のつながりで、先輩職員がメンター(助言者・指導者)となり、新入職員をマンツーマンでサポートする制度です。熊本YMCAでは、常議員会や運営委員会などにおいても同様に、経歴や年齢が比較的近い先輩が、新人の不安や悩みを解消、必要なアドバイス、育成を担うことで、会員の育成を図るうと取り組みを始めた。まず、メンターとは何かについて、お考えをお聞かせください。

菅 メンターとは、学校や職場など、地域社会の中におけるロールモデル(行動の模範となる存在)だと考えます。人は自らの力で立つことが困難になった時、無意識にメンターを探すものです。幸いなことに、YMCAやワイズメンズクラブなどには、5〜10年後の自分が目指すロールモデルとなり得る人たちが多くいらっしゃいます。このことを活かしながら会員育成に果たす具体的な役割を考えたいですね。

吉本 システム化こそされていないものの、YMCAにはもともとメンター制度が存在していると思います。他者へのコーチングという意味でも、複数の人が一つの場所で活動する際、関係づくりや啓発が行われてきました。体系化することは、次の世代の人材を育成し、チームワークを育むために重要だと思っています。

わたしと聖句



ペトロの手紙1:5章7節

思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。

心配事は神に投げよ

冒頭の言葉の「お任せしなさい」は英語では「cast(投げる)」となっています。

北海道では、「ゴミを捨てることを「投げる」と言っていました。われわれの

い切つて「投げ捨てる」。それが聖書の勧めです。

なぜ捨てるのか。われわれにその処理能力がないからです。捨てないでいると、あつというまに部屋はゴミで溢れ足の踏み場もなくなるでしょう。

心配事も同じです。それは日々増加し、心の中はそれでいっぱいになり、もはやどんな健全な思想も入って余地がないほどになるでしょう。ですから、「ゴミ捨て」は毎日やったほうがいい。翌日までとっておかない。できるだけ早く捨てる。では、どこへ捨てたらよいのでしょうか。

大地などの自然は、人間のほき出すすべてのものを浄化する力を持っていました。そうでなければ、地球がこれほど美しく保たれることはなかったでしょう。

同様に、私たちの心配事を処理し、浄化し、再生してくれる方は神様だけです。そして神様のほうから、「なぜあなたの心配事を私に任せないのか」とおっしゃってくださいているのです。

自分で悩むのはやめて、思い切つて神様におゆだねしようではありませんか。

大津キリスト教会
米村 英二

赤いりんごの会

1. YMCAの主体性・魅力
2. YMCAの見える化
3. YMCA担い手会員の育成

役割 常議員会に諮りながら、計画・遂行に関する総合的な調整を行う

構成 常議員、運営委員、職員

米村 自らを振り返ると、YMCAの活動に関わる中で次々に新しいステージが与えられ、どう成し遂げていくかを悩んだ時から様々な解決のヒントをいただきました。悩み

の中で神から与えられた自らの道を探している時、周囲から助言をいただく機会は大変貴重です。また、私自身が若い人たちと接していると、彼らもまた私を育ててくれるメンターであると感じています。誰もがメンターであり、メンティー(被助言者・被指導者)になり得るのではないのでしょうか。

上村 悩みや困難に直面している人に、「自分の時はこうだった」と経験を話すことができるだけでも、大変重要な存在だと言えます。一方では、間違いをきちんと正す存在でもあるべきでしょう。

相手の気持ちに寄り添う力

菅 昔の子どもは、地域全体で育てられていたものです。いけないことをすれば親ではない大

人からも叱られ、社会性や生活力を身に付けていきました。今の地域社会ではそのような関係性が薄れてきたように感じます。喜びや悲しみを分かち合える人間関係を築くことは重要です。日本では年間約3万人が自殺しており、子どもも多く命を絶っています。周囲に相談相手がいれば、防げたことかもしれません。ここに、地域社会とともにあるYMCAの存在意義があるように思います。互いの生き様を見せることで、人間関係の「セーフティネット(安全網)」となり得るのではないのでしょうか。悩みから立ち上がり、新たな人生を歩き出すための手伝いができると思っています。

上村 青少年に生き方を教えることができる大人、自ら動くこととする大人が少なくなっているように感じます。助言者として人の痛みや苦しみが見える人であってほしいし、助言を求められた時、自らの歴史を語るができるような生き方をする努力も必要でしょう。また、内省して自分がどのような力を備えているのかを知り、相手の心の中に寄り添える力を持つことも大切だと思います。

吉本 YMCAの中におけるメンターは、YMCAは共通の目的を持つ人の集まりである意識して指導することも重要でしょう。その中から、今は助言を受ける立場の若い人は、地域社会で関わりながら生きていくという能力を高めていってほしいと思います。(2面へ続く)

菅 YMCAには、年代も職業も異なる、様々な人生経験を積んだ人が集まっている点もポイントです。今後は、例えば一人が新しく何かを始めようとした際、パッと人が集まることで、すぐに成し遂げられるような非常に太い人間関係の構築が求められるでしょうね。そのような組織であれば、私たちもYMCAの会員になりませんか」と今よりもっと自信を持って勧めることができます。

神保 YMCA学院の学生にとっても、ロールモデルとなる大人に多くふれる機会は重要だと考えています。担任一人が、クラスの全員に対してタイミングよく指導者の役割を果たすのは難しい場合があります。そのような時にYMCAに集う他の大人の話を聞くことができる、将来を考える際にも役立つでしょうね。一方、職員側は、自らがロールモデルの対象と捉えてもらえるよう、常日頃から意識して行動することも大切です。そのような力を備えた職員が会員にそっと寄り添い、YMCAの中で新しい居場所を一緒につくっていく考え方も必要かもしれません。

【メンターの語源】

ホメロスの叙事詩「オデュッセイア」に登場するメントルが語源です。トロイ戦争勝利後、オデュッセウス王がゼウス神の怒りにふれ諸国放浪を余儀なくされた時、息子テレマコスの人指指南を盟友メントルに依頼したギリシャ神話に由来しています。



上村

困っている人に寄り添えることは、メンターが備えるべき資質の一つ。相手を受け入れ、共感できなければなりません。肯定的に受け止め、真摯に聴くことができると、良い耳、心を持つことができます。求められたら適切なアドバイスを自分の言葉で伝えること。お説教はダメですよ。危なっかしい場面でもじっと我慢してあたたく見守る勇気も大切なことだと思います。そして、最も重要なことは、まずメンターとして、自分自身が成長し続ける心を持つということです。そうすれば、その姿がロールモデルとして会員の方々に映るのではないのでしょうか。

**YMCAのメンター像を
分かりやすく伝えるために**

米村 相談された時、「拒否された」と感じさせないよう、どのように対応すればいいかなど、悩む時

があります。こちらのアプローチ次第では、相手が心を閉ざすこともありますから。相手に寄り添う際の助言者としての姿勢、言葉のかけ方などを学べる時間を設けられるといいですね。

吉本 メンター側が人生における哲学、価値観を持っておくということですね。生き方のテクニクを含め、考えをきちんと伝えることができる能力もメンターの重要な資質でしょうね。学生たちが社会人となり、地域社会に入ってきていく中では、メンターに対する知識があるか否かも非常に重要だと思います。そこから、YMCAにおけるメンターの思想も培われていくのではないのでしょうか。

菅 YMCAの使命、共通の目的を広く伝えていくためには、もっと具体的な言葉で表現する工夫も大切ではないでしょうか。例えば「きちんと挨拶をする」など、子どもでも分かるような言葉で、メンター像を示すのです。

吉本 行動につながる言葉で、YMCAが何を求めている組織であるかを伝えるということですね。箇条書きにしたり、絵に描いたりしてもいいかもしれません。

上村 毎日をどう過ごせば、自分がメンターとして人間関係におけるセーフティネットを編む糸の一本になれるのかにも、十分気づいてもらえそうですね。

神保 メンター制度を考えると、次のステップにつながる素晴らしい会員育成のプランができてきそうです。本日はありがとうございました。

**日本のお正月文化を
楽しく体験**



1月7日(土)、YMCA学院日本語科で日本語を学ぶ留学生たちが、日本のお正月文化を体験しました。今年と同じく東部YMCAに在籍する建築科の学生も参加し、にぎやかに書き初めやカルタ、餅つきを行い、つきたての餅入り雑煮を食べて交流を深めました。

ボランティアの指導のもと、書き初めを体験した金錫俊(カネツブネ)さんは、「韓国でも習字はしますが、漢字を筆で書くのは難しい。今後日本文化を学びたいと思っています。カルタに挑戦したスレーシアナングさんは、「みんなで日本のお正月を体験できてうれしい。スリランカにも似たゲームがあるので懐かしくなりました」と笑顔を見せました。また、台湾出身の黄植謙(ワウシケン)さんは、「自分で丸めた餅を食べられて楽しかった。皆さんが家族のように接してくれて、あたたかい気持ちになりました」と感想を話しました。

「日本人でも行うことが少なくなってきた伝統行事を体験し、改めて日本文化の素晴らしさを実感しました」と話すのは建築科の告坂剛(ツグサキ)さん。「国家間の壁を越え、民間レベルで交流する大切さを感じた貴重な時間でした。互いの文化を知る機会がもっと増えるといいと思います」と力強く話してくれました。

多文化共生理解推進

PHD協会

海外研修生との交流会

アジア・南太平洋地域の村の青年を研修生として日本に招き、農業や保健衛生などの研修を通して平和(Peace)と健康(Healthy)を担う人材育成(Human Development)に取り組むNGO・PHD協会。1月16日(月)、PHD協会から第29期研修生3名・スタッフ2名が西日本研修旅行の一環で中央YMCAを訪問し、YMCA学院高等学校の生徒と交流しました。

インドネシア出身のエリザ・フィトリさん、ネパール出身のパッサン・ラマさん、ラメ・カジ・シュレスタさんは、住んでいる村の暮らしや、日本で有機農業、保健衛生などを学んだ際の様子などを写真とともに紹介。「帰国後は研修で得た知識を村の人々に伝え、生活向上を図りたい」と話す一方、「水俣を訪ね水俣病について学びました。利便さばかりを追い求めてはいけないと感じました」とも。

高等学校の生徒たちは、「日本で苦労した点は何か」「日本の印象はどうか」などそれぞれに質問を投げかけ、文化や生活習慣の違いを知る貴重な機会を得ました。

PHD協会の一行は、その後、熊本城を見学し、国立ハンセン病療養所 菊池恵楓園でさらに学びを深めました。



アガへ No.71

総主事 堤 弘雄

たましいは生きる

北部タイで30年近く農業指導や青年教育に尽くされた谷口巳三郎さんが、昨年の大みそかに老衰のため88歳で現地の農場で天に召されました。

巳三郎さんは地球の食糧危機を思いながら、経済的に貧しい暮らしをしている北部タイの山岳民族の村人に農業を指導することにより人々が生活の糧を得る手段を教え、同時にアジアの食料自給率を高めることに力を注がれました。熊本YMCAに北部タイの山岳民族の子どもたちの支援の必要性を教えていただき、現在熊本YMCAが支援している若竹寮をご紹介いただいたのも巳三郎さんです。

私は1月8日に菊池市で行われた巳三郎さんの通夜に列席しました。その時、巳三郎さんを長年支えてこられた妻恭子さんは、挨拶でこのように語られました。

「私は悲しくありません。なぜなら、本人の体はなくても、奉仕の心や人々を愛する心はタイの農村の人たちの心の中に、そして、ご来場の皆様の心の中に生き続けているからです。」

私は奥様の挨拶に胸が熱くなりました。そして、人間の「たましい」について考える機会を得ました。

愛する人、または、愛してくれた人を亡くした時、たとえその肉体はこの世からなくなっても、その人の生前の“志”“愛”“慈しみ”などは自分や周りの人々の心の中で生き続けるということを学びました。

谷口巳三郎さんの御霊の平安のためにも、その志と奉仕の精神を私自身の胸に深く刻んでおきたいと思ひます。

老人ケア科の海外研修では、日系人高齢者の施設、ホームレスや障がい者の支援施設、そして現地のYMCAなど様々な場所を訪れます。施設の利用者と交流したり、建物を見学したり、日本とは違う文化の中での福祉について学んできました。行かなければわからない現地の様子や雰囲気、学生たちは大いに刺激を受けたようです。就職にあたり、今回の経験を活かしていきたいと思ひます。

職員 瀬口裕正

YMCA学院 国際的視野を広げる 海外研修

国際ホテル科の2年生は、ハワイ・オアフ島のホノルルへ研修に行きました。ビーチサイドに吹き抜けるのんびりとした雰囲気を味わい、ハワイの文化や生活の様子を見学したり、パールハーバーを訪れて戦争について学んだり、マルケサス諸島に民族の端を発するといわれるハワイの様々な側面を感じる機会となりました。

職員 山口智子



YMCA学院は、異なる文化や価値観にふれ、グローバルな視点やコミュニケーションスキルを身につけることを目的に、各学科で海外研修を実施しています。12月、アメリカを訪れた老人ケア科、ハワイホノルルを訪れた国際ホテル科の報告です。(関連記事4面)



中高生の英語合宿 イングリッシュ・コミュニケーションプロジェクト

昨年12月26日(月)〜29日(木)、YMCA国際青少年センター(東山荘静岡岡御殿場市)で開催された「YMCAイングリッシュ・コミュニケーションプロジェクト」(ECP)にむさしYMCAの重信亮太くん(高一)が参加しました。

参加者は3泊4日、ほぼ英語のみで過ごし、「自然災害」「防災」「エネルギー」「ボランティア」をテーマに、グローバルな視点から英語でディスカッションやプレゼンテーションを行いました。また、ホテルの総支配人を永年勤められた口



みで過ごし、「自然災害」「防災」「エネルギー」「ボランティア」をテーマに、グローバルな視点から英語でディスカッションやプレゼンテーションを行いました。また、ホテルの総支配人を永年勤められた口

むさしYMCA 相馬美幸

REPORT event

阿蘇でファミリー年越しキャンプ

■開催日/2011年12月31日(土)〜2012年1月1日(日)
■開催場所/阿蘇YMCA

年末年始の1泊2日で恒例のカウントダウンキャンプを開催し、熊本県内外から10家族が参加されました。初日はみんなで手作りのそばを打ち、年越しそばとして食べました。また、カウントダウンパーティーではビンゴ大会などで盛り上がりました。元日は阿蘇YMCA特製のおせちを食べた後、餅つき大会や書き初め体験、ネイチャークラフト作りなどに挑戦。家族ぐるみで交流しながら2011年を締めくくり、阿蘇YMCAらしい、ゆったりとした新年をみんなで迎えることができました。



阿蘇YMCA 櫻間博継

「ひまわり」に想いを込め 児童福祉教育科卒業発表会

■開催日時/2012年1月18日(水)9:50〜11:20
■開催場所/熊本YMCA阿蘇キャンパメインホール

赤水・尾ヶ石・永草保育園の園児を招いて開かれた、YMCA学院児童福祉教育科3年生による卒業発表会。子どもたちがひまわりのように太陽に向かって元気に育ってほしいという願いを込め、劇やダンスを上演しました。3年間で得た学びを活かした構成で、小道具や衣装などはすべて学生の手作り。登場する主人公の拳くんだり魔法を子どもたちは熱心に見つめていました。合奏とダンスに合わせ一緒に歌ったり踊ったりする場面もあり、会場は一体となって盛り上がりました。



阿蘇YMCA 櫻間博継

Life

第43回

“いのち”“生活”
“いきがい”をテーマに
したメッセージ。



熊本市障がい保健福祉課
精神保健福祉係 技術参事
本村法子さん(右)
熊本市ひきこもり訪問相談員
畠村卓さん(中央)
作業療法士
田上和代さん(左)

②

周囲が理解を示して受け入れることが 本人の意識を変えるきっかけになることも

社会の仕組みが複雑化し、不況が続く中、ひきこもりになる人は増えていくのではないかと予想されています。当課では、ご家族などからの相談を窓口で受け、自宅訪問を行っています。すぐに本人に会うのは難しいですが、大切にしているのは、当事者を「そのまま受け入れる」ことです。「怠けているのではない」「好きでひきこもっているのではない」という本人の思いに、周囲は寄り添う必要があります。

長期にわたってひきこもりの家族を抱える方の中には、自らを責めている方もいます。一方の当事者は、家族から過度に見守られることをプレッシャーに感じることもあるようです。ひきこもりは、本人や家族の自助努力だけで解決することはなかなか難しく、第三者による支援が必要です。外部の人間による声かけが、解決のきっかけとなるケースも多々見られます。現在は家族がひきこもりについて学び、話し合うことができる教室なども開催しています。また、当事者が集まって互いに話ができる場を提供する民間団体、就労支援機関などの紹介も行っていますので、悩みを抱えているご家族の方は、ぜひご利用ください。家族が理解者となり、少しずつ本人の意識が変わっていくことが、自立への一歩につながるはずですよ。

お年玉付年賀はがき切手シートでボランティア

熊本ワイズメンズクラブでは、お年玉付年賀はがきで当選した記念切手シートを集めています。切手シートは換金し、視覚障がい児プログラムのポニーキャンプなど社会福祉事業の活動資金に充てられます。もしお手元に届いた年賀はがきで切手シートが当選してありましたら、**最寄りの郵便局で切手シートに交換して**いただきご寄贈ください。



お問合せ/熊本ワイズメンズクラブ(担当 福山) TEL 096-353-6391

心と体を磨こう！ 生涯学習セミナー

人々の健康増進を目指して、YMCA専門学校運営委員会主催の「心と体を磨く」セミナーを開催致します。

●地震車に乗って地震体験(協力:熊本市消防局西消防署)

日時:2月25日(土)14:00~16:00

場所:中央YMCA

●楽しくエコクッキング(身近な野菜の保存法・エコ料理など)

講師:北亜綾子さん(野菜のソムリエalliance代表)

日時:3月3日(土)10:30~13:00 場所:中央YMCA

参加費:500円(材料代として)

お問合せ 熊本YMCA学院

お申込み TEL 096-353-6393 FAX 096-324-7877

PEOPLE 熊本YMCAに関わる人たちを順番にご紹介します。

YMCA学院 生涯スポーツ科



生涯スポーツ科2年生は12月8日~14日の日程でホノルルマラソンに参加しました。マラソンでは不安や緊張も多くありましたが、沿道からの声援を受け、仲間と声をかけ合い、励まし合いながら全員完走することができました。学生から「今まで味わったことのない達成感を感じた」「もう一度走りたい」など充実感に満ちた感想が聞かれました。仲間との絆を深めることができた素晴らしい海外研修となりました。この経験を自信に社会に出てからも活躍してほしいと思います。

YMCA学院 池山昌吾

YMCA学院 建築科

YMCA学院建築科では2年次の12月にヨーロッパ研修を実施しており、今年度はバルセロナとパリを訪問しました。バルセロナでは、有名なアントニ・ガウディの建築であるサグラダ・ファミリアなどを、パリではヴェルサイユ宮殿、オペラ座、サヴォワ邸など、中世から近代、現代に至る数多くの建築を見学しました。自主研修では学生各自で計画を立て、地下鉄などの交通機関を積極的に利用し活動しました。今回の研修で学んだことを、これからの人生に活かしてほしいと思います。



東部YMCA 熊本哲朗

阿蘇YMCA



昨年12月17日(土)に阿蘇YMCAワークキャンプを行いました。ご利用していただく皆様に、より安全で快適に過ごしていただけるようにと、阿蘇YMCA運営委員や野外教育運営委員、阿蘇ワイズメンズクラブなど、たくさんのボランティアの方々によって阿蘇YMCAの環境美化に取り組んでいただきました。

お陰様で多くの方々を支えられ、今年で阿蘇YMCA設立60周年を迎えます。より一層の感謝を持って、皆様のご来館を心よりお待ちしております。

阿蘇YMCA 櫻間博継

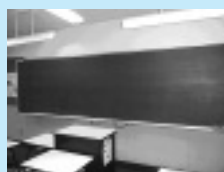
YMCA NETWORK

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 熊本中央YMCA ☎096-353-6391 | ながみねファミリーYMCA ☎096-385-0676 |
| YMCA学院 ☎096-353-6393 | 熊本むさしYMCA ☎096-248-6334 |
| YMCA学院高等学校 ☎096-353-6391 | 阿蘇YMCA ☎0967-35-0124 |
| 本部事務局・ICR ☎096-353-6397 | 赤水保育園 ☎0967-35-0024 |
| 熊本みなみYMCA ☎096-378-9370 | 尾ヶ石保育園 ☎0967-32-0213 |
| 上通YMCA ☎096-352-2344 | 永草保育園 ☎0967-32-0810 |
| 熊本東部YMCA ☎096-382-6661 | リフレスおおむた ☎0944-58-7777 |
| 水前寺幼稚園 ☎096-362-4141 | |



キャラクター・ディベロップメント推進中

「いつ見ても黒板がきれい」。そんな声が聞かれるほど、東部YMCA4階教室の黒板はきれいです。黒板消しは日直の役目。授業が終わると黒板を消して次の授業準備をします。ところで、黒板というのはただ消すだけでいいとお考えでしょうか。どうせ消すのです、それならきれいに消したほうがいい。誰が日直になっても必ずそうします。それは与えられた役割を責任持って全うするということだから。それだけではありません。必ず誰かが手伝い始めます。だからあつという間にきれいになります。思いやりです。(吉田)



【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会
ウェルネス活動

地球環境の保全
ボランティア活動

生涯学習の推進
平和な世界

ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp

メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

